



「ユニットトラス」の施工現場の様子(上)トラスを固定してユニット化したもの

国内初の木質トラスは2024年6月26日の専門メーカーでスウェーデンハウスの100%子会社であるプライムトラス(東京都江東区、藤田史朗社長)はこのほど、木質トラス3〜4本を4ユニットまたは10ユニット1台に積載できるサイズに接合し、施工精度の向上および作業時間の短縮に寄与する中小規模木造建築用屋根材「ユニットトラス」の特許を取得した。特許出願日

プライムトラス

「木質トラス」で特許取得

ユニット化で課題解決

25年3月4日。

木質トラスは屋根・天井を支える「木の骨組み」であり、住宅の屋根だけではなく体育館、多目的ホール、物

流倉庫、畜舎などの広

い無柱空間が必要とされる建物で多く採用されている。従来の切妻場作業者の技量に依存する傾向があった。

同社の「ユニットトラス」は、自社工場

で3〜4本のトラスを固定してユニット化。棟部を転び止めではなく40

が掛かるとともに、施工精度がクレーンや現場作業者の技量に依存する傾向があった。

同社が延床面積132平方メートル程度の住宅で実施した試験施工では、通常18本使用するトラスがユニットトラス5台で施工ができる

の隙間を設け棟木を通すことにより棟部の全長精度を良くし、レッカー作業での安定性を図っている。

工事現場での人手不足が深刻化している中で、従来の切妻トラスの課題を解決するために屋根のトラスをユニット化。「ユニットトラス」を使用した「PUT(Prime Unit Truss)工法」によって、「現場作業効率の改善」「安全性の確保」を実現していく考えだ。

次に鼻隠し両側と棟木の設置にてトラスをユニット化。施工運搬用の治具にて、トラスユニットを上から重ねていくことでトラック台数を減らし、輸送コストを大幅に削減でき

る。それによって作業

の隙間を設け棟木を通すことにより棟部の全長精度を良くし、レッカー作業での安定性を図っている。

次に鼻隠し両側と棟木の設置にてトラスをユニット化。施工運搬用の治具にて、トラスユニットを上から重ねていくことでトラック台数を減らし、輸送コストを大幅に削減でき